



ロータリーは機会を開く

2020-21 年度 RI テーマ
Rotary Opens Opportunities

国際ロータリー会長
ホルガー・クナーウ

Weekly Bulletin

30th anniversary

藤枝南ロータリークラブ 会報

例 会：毎週金曜日
会 場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30
T E L：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内 藤枝市藤枝 4-7-16
T E L：054-646-3919 F A X：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2020-21 年度
会長：松浦正秋 副会長：竹田敏和 幹事：鈴木健夫 副幹事：望月 誠

例 会 第 1 3 7 7 回： 通常例会/小杉苑
ソング 我等の生業、手のひらを太陽に : ソングリーダー 大村和宏君

原点回帰

■ 会長挨拶 松浦正秋君



本日は地区のロータリー財団委員会より望月副委員長と静岡第4グループ担当の中村さんをお招きしての例会となります。今年度は財団・米山関連の支出は1人当たり約6万円です。ENDポリオのような国際貢献や米山奨学金等様々な事業や活動に使われております。財団に関して改めて学ぶ機会となれば幸いです。さて WITH コロナの新常態（ニューノーマル）ということが新聞やネット上で様々掲載されています。今までの当たり前が大きく変化し始めているように感じます。テレワークは大手企業等で実施が進んでいるようです。従業員は通勤の為に時間を使わなくて済みます。企業は事務所が不要になります。また、決済時の押印や取引時の契約印も無くなりそうです。テレワークを実施しているのに印を押すためだけに会社に出るといことがあるようです。銀行の口座印も不要になるようです。商習慣の変化は確実に起きています。テレビ会議システムの普及が著しいです。会議場への往復の時間の削減、移動経費の削減、会議場そのものも削減されていくのでしょうか。自らの事業活動や生活の中の当たり前を見直すことが必要な時期ではないでしょうか。しかも、かなり大胆に行うべきでしょう。このように感じる一方で人と人との触れ合いが極端に減っていることを危惧します。例会時のメンバーが一堂に集い、顔を見て語らうこの時間を大切にしていきたいと感じた今週でした。

■ 出席報告 村松章典君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
42/51 82.35%	38/51 74.5%

(1) 欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）

- 阿井君 ○稲葉君 ○内山君 ○佐野博君 ○杉浦君
- 樽井君 ○瀧脇君
- 川口君 佐野裕君

(2) メイクアップ者

食事準備数	食事提供数	残	累計残
47	46	1	10

パーフェクト例会数 😊

欠席連絡は、当日朝10時前までにお願いします

■ スマイルBOX 村松章典君

- ・本日 財団セミナーよろしくお祈いします。
地区財団委員会中村様・望月様
- ・本日は、地区より望月様、中村様がお越しいただきました。ありがとうございます。財団の理解が深まればと思います。 松浦正秋君

スマイル累計額 119,000円



ロータリー財団とは



「世界でよいことをするために、、、」



アーチ・クラフ

1917年、第6代会長アーチ・C・クラフがアトランタの国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他、社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と提案。これが、ロータリー財団をつくるきっかけとなった。

ロータリーと財団 奉仕について



ロータリーは機会の扉を開く



2020-21年度
ホルガー・クナウ会長

ロータリーは、**奉仕**プロジェクトを実施し、やり遂げる機会を与えてくれます。これらは、意義があり、持続可能なプロジェクトです。ロータリーでは、寄付だけでなく、**奉仕活動**も行い、その**奉仕**がもたらす持続可能なインパクトをこの目で見るすることができます。これは、他にはない機会です。

ロータリー財団の役割



1. ロータリー及び財団の奉仕事業の発展のため、寄付を募り、運用開発する**(資金開発)**
2. 財団の補助金を各クラブの奉仕事業に有効に使うサポートをする。**(奉仕事業のサポート)**

ロータリー財団への寄付の行方



グローバル補助金



要件

- 6つの重点分野を支援(平和と紛争予防/紛争解決、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、経済と地域社会の発展)
 - 活動予算は30,000ドル以上。
 - 長期的に**持続可能**で補助金使用後も成果を持続させる計画であること
 - 地域社会の人々が**特定した重要なニーズ**に応えること。
 - 地域社会が独自のニーズを自力で満たせる力を向上させること。
 - 海外のロータリーとの共同プロジェクトでロータリアンも積極的に参加する
- 活動の種類
- **人道的プロジェクト** 地域社会のニーズに取り組み持続可能・測定可能な成果を得る。
 - **職業研修(VTT)** 専門職業人のグループを海外に派遣、指導・研修を行う。
 - **奨学金** キャリアを目指す人の大学院留学の費用提供。

最重要活動 ポリオ・プラス



ポリオとは

- 日本では小児麻痺とよばれ、ウイルスに感染し麻痺が起こると手足に力が入らなくなり、現在は治療できない。ワクチン接種で免疫抗体を受動的に獲得しておくのが最善。かつて日本でも年間1500~6000人の患者が発生していたが、1961年にポリオ生ワクチンが導入、1981年以降患者確認されていない。

ポリオ・プラス

- ロータリーは1979年より、ワクチン投与を開始。40年近くの継続事業。
- その後破傷風・ジフテリアなど5つの感染症を加え「ポリオ・プラス」になる
- 現在、ナイジェリア・アフガニスタン・パキスタンの3カ国だけ残る。
- 財団基金の約半分が使われている。
- 今後は不活化ワクチンの注射での接種一資金面での支援

「ポリオのない世界まで あと少し」

地区財団委員会の本年度目標



1.各クラブのサポート体制の強化

- ・地区委員会と各クラブの連携をより強め、使いやすい財団委員会を目指す。
- ・グループ担当者を、各クラブの財団委員長をサポート

2.財団活動の発信強化

- ・地区補助金事業のHPによる発信
- ・地区大会においての、パネルにて奉仕事業のパネル発信

3.グローバル補助金への取り組み

- ・グローバル補助金の理解の強化
- ・クラブへの参加促進



補助金小委員会
副委員長
中村幸夫様

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
8/28(金) 第1378回	納涼夜間例会	小杉苑
9/4(金) 第1379回	会員卓話	理事会
9/11(金) 第1380回	会員卓話	小杉苑
9/18(金) 第1381回	ガバナー訪問	小杉苑



24 年前にドイツのハノーファーのロータリクラブにメイキャップしたことが私にとっては思い出深いことで

した。大学の先輩がハノーファーの大学に研究留学していたので友人とのドイツ旅行の別コースで会いに行きました。昼間はやることがなかったので、ハノーファー周辺のクラブを探して、メイキャップをしました。その時に初めてメイキャップは事前に申し込んで行くことを知りました。場所が一般レストランの奥の部屋でやっていたとしても分かりづらいところでした。例会自体はドイツ語（当たり前）なので、ほとんどわからず、卓話は討論会のように感じました。時間に余裕ができたなら、いろいろなクラブにメイキャップしていきたいと思います。



☆ロ - タリー財団委員卓話
ありがとうございました☆

